

移動等円滑化取組計画書

令和3年6月30日

住 所 長崎県長崎市大橋町4番5号

事業者名 長崎電気軌道株式会社

代表者名（役職名及び氏名）

代表取締役社長 中島典明

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第9条の4の規定に基づき、次のとおり提出します。

I 現状の課題及び中期的な対応方針

（1）旅客施設等の整備に関する事項

長崎市内の道路は狭く、道路上に設置されている停留場の延長や拡幅は困難な状況である。そこで、道路工事等と合わせて停留場の移動等円滑化整備が行えるよう、道路管理者と協議を続けていく。

（2）車両等の整備に関する事項

バリアフリー対応車両は全営業車両71両中6両で全体の約8%である。（2020年度）

2022年度までにバリアフリー対応車両を2編成導入する。

購入費用が高く一度に複数台の導入が困難であることから、老朽車両の更新時期等を踏まえながら計画的に導入していく。

（3）旅客支援、情報提供、教育訓練等に関する事項

旅客支援については、バリアフリー対応車両以外の車両では乗車ステップに段差があるため車いす利用者が利用する際は運転士が乗降の補助をしているが運転士への身体的負担が大きい。また、電動車いすの場合は荷重が重く他の手助けが必要である。さらに、停留場からスロープは幅員が狭く運用ができない。以上のことから、バリアフリー対応車両の導入が抜本的な対策となる。

情報提供については、ホームページや停留場にバリアフリー対応車両の専用ダイヤを掲示しており、今後も継続していく。

運輸部門を対象とする研修会において、障害者対応に関する研修を行う。

II 移動等円滑化に関する措置

① 旅客施設及び車両等を公共交通移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置

対象となる旅客施設及び車両等	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
長崎駅前停留場	・長崎駅周辺整備事業に伴い、当該停留場にエレベーターを設置する方向で道路管理者・交通管理者と協議を実施する。
バリアフリー対応車両の導入	・バリアフリー対応車両を 2021 年度までに 1 編成導入する。
誘導ブロック等の整備	・2020 年度以降、改修等の予定がある停留場については、内方線付き点状ブロックでの整備を実施していく。

② 旅客施設及び車両等を使用した役務の提供の方法に関し法第八条第二項及び第三項の主務省令で定める基準を遵守するために必要な措置

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
現状の把握と検討	・ソフト基準を満たしていない状況を整理して対応を検討する。
運行状況の提供	・停留場サイネージ(液晶モニター)の設置範囲を拡大し、ホームページ上だけでなく停留場においてもバリアフリー対応車両の運行情報を提供する(2021 年度までに 12 停留場 14 基)。
障害者に関する教育	・運輸部門を対象とする研修会において、障害者対応に関する研修を行う。

③ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる乗降についての介助、旅客施設における誘導その他の支援

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
バリアフリー対応車両の運行	・バリアフリー対応車両の数が限られているため、高齢者や障害者の利用状況に応じて運行計画を継続的に見直す。

④ 高齢者、障害者等が公共交通機関を利用して移動するために必要となる情報の提供

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
運行状況の提供	・停留場サイネージ(液晶モニター)の設置範囲を拡大し、ホームページ上だけでなく停留場においてもバリアフリー対応車両の運行情報を提供する(2021 年度までに 12 停留場 14 基)。

障害者料金の明示	・ 停留場や車内で障害者料金の明示を検討する。
インターネットを利用した車両位置情報発信の充実	・ インターネットを利用した位置情報サービス発信の充実化を検討する

⑤ 移動等円滑化を図るために必要な教育訓練

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
障害者に関する教育	・ 運輸部門を対象とする研修会において、障害者対応に関する研修を行う。

⑥ 高齢者、障害者等が高齢者障害者等用施設等を円滑に利用するために必要となる適正な配慮についての旅客施設及び車両等の利用者に対する広報活動及び啓発活動

対 策	計 画 内 容 (計画対象期間及び事業の主な内容)
車内優先席案内の周知方法の見直し	・ 既存の掲出ステッカーも含めた周知方法の見直しを行う。

Ⅲ 移動等円滑化の促進のためⅡと併せて講ずべき措置

・ 促進のため経営企画室が事業実施や進捗状況について確認を行う。

IV 前年度計画書からの変更内容

対象となる旅客施設及び車両等又は対策	変更内容	理由
現状の把握と検討	・ソフト基準を満たしていない状況を整理して対応を検討する。	法改正による項目追加
運行状況の提供	・2020年度までに12停留場17基から2021年度12停留場14基に変更	位置情報サービス検討を受けての計画縮小
インターネットを利用した車両位置情報発信	・インターネットを利用した位置情報サービス発信の充実化を検討する	対策追加
車内優先席案内の周知方法の見直し	・既存の掲出ステッカーも含めた周知方法の見直しを行う。	法改正による項目追加

V 計画書の公表方法

自社ホームページに掲載

VI その他計画に関連する事項

長崎駅前エレベータ設置事業は長崎市の長崎駅周辺整備事業に位置付けられ、当社はエレベータ設置に伴う電停拡張と上屋設置を計画している。

注1 IVには、IIについて前年度と比較して記入すること。なお、該当する対策が複数になる場合には、新たに欄を設けて記入すること。

2 Vには、本計画書の公表方法（インターネットの利用等）について記入すること。

3 VIには、IIの欄に記入した計画に関連する計画（事業者全体に関連するプロジェクト、経営計画等）がある場合には、必要に応じ、その計画内容及び計画における当該事業者の位置付け等について記入すること。